

メロン「イバラキング」のヒルネット発生軽減は、低温寡日照時のトンネル換気が有効
農業総合センター園芸研究所

「イバラキング」は、硬化期（交配後 15 日～20 日）に低温寡日照条件に遭遇した場合、ハウス内気温 10℃以上でトンネルを換気すると、トンネルを閉め切った場合に対し、果実周辺の湿度が低下し、ヒルネット発生を軽減することができます。

ココがポイント

日中換気の有無とヒルネット発生の関係

「イバラキング」のヒルネット発生要因は低温寡日照時に日中トンネルを閉め切ることによる果実周辺の多湿化と考えられます。そこで、低温寡日照条件下において日中にトンネルを換気すると、果実周辺の湿度が低下し、ヒルネットの発生を軽減できます（表）

換気と果実肥大の関係および経営的評価

トンネルを換気すると、やや小玉化する傾向がみられ、閉め切り区に対し 4L 以上の割合が低下します（図 2）が、換気区では秀品の割合が高くなり、閉め切り区に比べて、粗収入が増加します（図 3）。



図 1 ヒルネットが発生した果実

表 換気の有無がヒルネット発生程度¹⁾に及ぼす影響

試験区	ヒルネット発生程度別割合(%)				
	無	少	中	多	甚
換気	56.0	24.0	12.0	8.0	0
閉め切り	30.4	17.4	4.3	26.1	21.7

1)ヒルネット発生程度は無から甚の5段階で評価した。

無:発生無し(秀相当)

少:通常のネットの2倍以下のやや太めのネットが1から3本発生(優相当)

中:通常のネットの2倍以上のネットが数本から果実表面の半分以下に発生、もしくは2倍以下のネットの発生が1/3以内(無印相当)

多:通常の2倍以上のネットが果実表面の半分程度に発生(A品または○品相当)

甚:通常の2倍以上のネットが果実表面の半分以上から全体に発生、もしくは裂果のような深いネットが発生(販売不可)

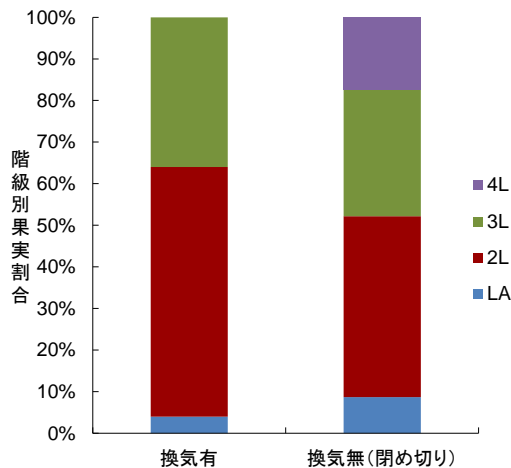


図 2 低温寡日照時の換気の有無が階級に及ぼす影響

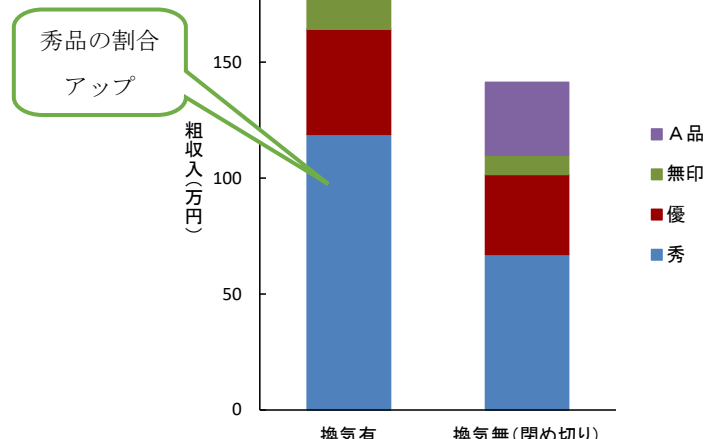


図 3 低温寡日照時の換気の有無が粗収入に及ぼす影響

活用上の留意点

- 1) 日中、極端な低温に遭遇した場合、トンネル換気の実施はヒルネットの発生を助長したり、果実肥大を妨げる場合もあるので、日中のハウス内が 10℃を下回るような状況下では、換気を控える、もしくは換気を短時間にする等の対策が必要です。
- 2) ヒルネットの発生程度は、低温寡日照時のトンネル換気程度だけでなく、圃場の土壌水分や草勢等の影響も受けるので、ネット発生前の灌水を控えたり、旺盛な生育にならないよう心掛けましょう。

＜問合せ先：園芸研究所野菜研究室 Tel 0299-45-8341＞